

2010.6.2「平河クラブにて記者会見を行いました。」

西田：谷垣総裁に、鳩山内閣の総辞職、解散を求める署名を先ほど渡して参りました。奇しくも今日、鳩山総理が辞任を表明されましたが、普天間基地移設問題の結論を5月中に出すと鳩山総理が仰っていたので、これができなかった場合には解散して民意を問うべきであるという主旨の署名をホームページや街頭遊説において個人的に募集していました。そして、2週間という短期間で14026通の署名を頂きました。それ以外に、自民党の京都府連に2600通を超える署名が集まっています。5月31日を期限として行いましたが、今でも毎日、千〜二千通の署名が集まっています。そうして集まった署名を谷垣総裁に直接手渡しました。鳩山総理は辞任しましたが、それで問題が解決したわけではありません。問題は民主党政権自体にあります。首のすげ替えではなく、解散総選挙をして、もう一度政権選択の民意を問うべきです。このようなことを、総裁にも強い覚悟でやって頂きたいということをお願いして参りました。

谷垣総裁は、短期間に非常に多くの署名が集まったことに対して、驚きと同時に、大変力強いものを感じていらっしゃいました。総理が替わっても引き続き解散総選挙を要求していくという意味確認をしました。

記者：5月31日が期限ということですが、署名を集めた期間はどれ位ですか。

西田：5月15日から31日までの2週間です。

記者：具体的な方法を教えて下さい。

西田：ホームページに専用のフォームを用意しました。それに署名をしたものをFAXで送って頂きました。メールや郵便もありますがFAXが多いです。

記者：谷垣総裁に署名をお渡したとのことですが、解散要求を国民の声として、官邸に提出するのでしょうか。

西田：本来なら、我々や谷垣総裁からそれだけの署名があるということを、国会論戦などを通じて見せるつもりでした。しかし、今はこのような状況なので、国会自体がきっちり開かれるかどうかわかりません。解散要求の署名ですから本来は鳩山総理に直接提出するべきですが、署名者からの問い合わせに、自身の個人情報に民主党に渡って何かに悪用されると困るという意見が多くありました。私達はそのようなつもりはありませんでしたから、「私、西田昌司が責任を持って預かり、鳩山総理打破のために使います」ということで納得して頂き、署名を送って頂きました。

署名される方が、署名自体ではなく、国民の声を届けて欲しいということでしたので、このような形にしました。

記者：首相が替わりました。表紙を替えただけですが、参議院選挙に向けた戦略として、選挙に影響を与えたいと思いますか。

西田：なぜ今の時期に参議院の方々が中心となって鳩山総理の辞任を促したのかということです。支持率が下がったから夏の参院選を戦えないのではないのかという理由は分かりますが、これはナンセンスです。なぜならば、次の総理がどなたになっても、

政治とカネの問題、マニフェストの問題、そして普天間基地の問題は変わらないからです。特に普天間問題は、代替地は沖縄県内のまま、日米共同宣言で決めたものに元の木阿弥で立ち返るようです。福島大臣が「沖縄を裏切った」と発言し、社民党との連立が解消されました。そのような経緯があるために、次に総理になる方も「基地を県外に移設します」とは言えないはずです。その事に彼らは気付いていません。そもそも社民党と連合政権を執っていること自体出鱈目です。出鱈目ばかりしてきたことを謝罪すればよいのに、その姿勢すら今の民主党にはありません。ですから、総理大臣が誰に代わっても本質が根本から変わることはありません。また今回の記者会見で疑問に思ったことは「小林千代美議員には議員辞職していただいて、小沢議員には幹事長を辞めていただく」ということです。辞めるのなら国会議員を辞めなければ話になりませんし、国民に対して説明責任が果たされていません。次の総理が小沢・鳩山両議員に「説明責任を果たしなさい」と言えるのでしょうか。私はこの問題を去年の6月の決算委員会から質問しています。「あなた方が次に政権を取るかもしれないけれど、鳩山議員や小沢議員の政治とカネの問題は、自らが追及しなければ命取りになりますよ」と、私は1年前から言い続けてきました。結局、それが命取りになって鳩山総理は辞任することになりましたが、次の総理が党内で究明するために調査機関を作りましょうとか、小沢議員は政治家の責任として議員辞職すべきだ等と発言されるのでしたら別ですが、今の情勢ではありえません。なぜならば、鳩山議員に鈴を付けに行っただのが小沢さんだからです。一番の問題になっている日教組問題、その親玉になっている興石東議員と小沢議員が鳩山議員に鈴を付けに行って何を進言したか分かりませんが、それでは全く筋が通りません。ですから私は、どなたが次の総理大臣になっても首のすげ替えにすぎないと思いますし、国民もすぐにそのことに気付くはずで、私達はそのことを訴えて続けて参ります。